（様式４）
別紙２

論文審査の結果の要旨

学位申請者　PRAJAPATI SHREEJANA

本論文は、「Interruption and Information Management for Computer-Mediated Communication（コンピュータを利用したコミュニケーションのための割り込みと情報の管理）」と題し、６章より構成されている。

第１章「Introduction」では、コンピュータを利用したコミュニケーションツールであるインスタント・メッセンジャー（IM）の利便性を述べるとともに、受信者への割り込みがもたらす作業効率への悪影響についての概要を示し、本研究の目的と範囲を述べている。

第２章「Literature Survey」では、職場における IM の利用に関する既存研究の調査を行い、その結果明らかになった送信者と受信者の双方に対する好影響および悪影響を整理する。また、受信者への割り込みによる作業効率への悪影響を軽減するための既存研究について概観している。

第３章「Interruption Management with Self-Initiated Intermission」では、IM 利用時の適切な割り込みタイミングとして、Self-initiated intermission（自発的休止）が利用可能であることを提案している。また、既存研究が提案しているアプリケーション切替え時の割り込みおよび一定時間間隔での割り込みを比較対象として、実験による作業効率の比較を行い、その結果、自発的休止時の割り込みが悪影響を最小にすることを明らかにしている。

第４章「Necessity of Enhancing Instant Messenger Features」では、職場で利用されている既存の IM に関するアンケート調査を通して、IM メッセージに対する受信者の応答に影響を与える要素を分析し、不必要な割り込みを行わない IM の必要性を示し、次章で提案する割り込みと情報を管理するためのフレームワークに対する潜在的ニーズを示している。

第５章「Interruption-Information Management in Chat Interface」では、IM の送信者と受信者の双方の立場を考慮した、割り込みと情報を管理するための新しい IM フレームワークを提案する。また、このフレームワークに基づく新しい IM を新たに設計・開発し、被験者実験によって開発した IM と既存アプローチによる IM を比較し、仮説どおりに、提案した IM の方が割り込みによる作業への悪影響が小さいことを示している。

第６章「Conclusion」では、本論文における具体的な研究成果をまとめるとともに、残された課題、今後の研究の方向性、そして本研究による貢献の重要性について述べる。

よって、本論文は工学上及び工業上貢献するところが大きく、博士（工学）の学位論文として十分な価値を有するものと認める。

審査委員主査　山田耕一　印